

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1~P2 在宅医療 特集 (2)

P3 2026年第36回世界医学検査学会 (IFBLS) の日本開催が決定!!

P4~P5 The 7th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (第7回アジア医学検査学会)

P6~P8 第61回大韓臨床病理士協会総合学術大会参加報告

P9 令和5年度 医療安全管理者養成講習会 (基本コース) 開催報告

P10 日臨技支部医学検査学会開催報告 (1)

在宅医療 特集 (2)

在宅医療を支えるシームレスな医療サービス ~臨床検査技師として~



患者がご自宅で安寧と過ごすためには病院の前方・後方支援が重要な役割を担っている。また、病院として在宅医療を実施している医療機関もあり近年増加傾向にもある。

在宅医療をイメージした時、訪問する診療所の医師や看護師等が注目されるが、臨床検査技師もその一端を担っている。在宅医療と検査をテーマに取り上げた、イベントについてご紹介する。

第32回神奈川県臨床検査医学会大会 報告

横浜市立市民病院 検査・輸血部 千葉 泰彦

第32回神奈川県臨床検査医学会大会

さらなる在宅医療への貢献へ ~チーム臨床検査で!

抄録集表紙から

本年6月3日、神奈川県立かながわ労働プラザにて、第32回神奈川県臨床検査医学会大会が神奈川県臨床検査技師会との共催で開催された。会場内の1つのホールに参加者が一堂に会する、小じんまりした大会ならではの、顔の見える関係作りや情報交換の場としても貴重な集まりである。総参加者数は89名であった。

筆者が大会長を拝命し、プログラムは、企業学術発表5演題、一般演題6演題、特別講演2講演の構成とした。

2020年3月に始まったコロナ禍が丸3年続いている中、私は、「入院患者さんへの面会は原則禁止、新型コロナウイルス感染症に罹患した患者さんについては

入院中だけでなく、亡くなった場合、家族であっても火葬後まで会えない」という悲惨な状況を目の当たりにしてきた。在宅で治療が受けられていたら、とも思ったこともあり、大会のテーマを、「さらなる在宅医療への貢献へ~チーム臨床検査で!」に決めた。特別講演は以下の2題とした。

【特別講演1】

在宅医療への貢献~臨床検査技師として出来ること~

演者: 杉原 明美 (医療法人あんず会 杏クリニック)

【特別講演2】

在宅医療におけるPOCT機器の精度管理

演者: 谷 直人

(国際医療福祉大学教授 (熱海病院検査部長))



特別講演1の座長をする筆者

企業学術発表、一般演題ともに、在宅医療での利用も可能なPOCT機器等に関する発表もいただいた。

特別講演では、最初に、在宅医療現場において臨床検査技師として活躍されている杉原明美氏から、具体的に関わっている業務について詳細にご紹介いただいた。医師の指示を受け、単独で患者宅を訪問し、血液検査・心電図・超音波検査等を実施し、その場でテレビ電話を使い医師と検査結果を共有、医師から患者へ検査結果を報告することで必要な治療を速やかに開始することが可能とのことであった。杉原氏の講演を拝聴するのは2回目であったが、改めて感銘を受けた。続く、〆谷直人氏の講演では、在宅医療でも使われるPOCT機器の精度管理について、POCTに特化した外部精度管理は現在のところ実施されておらず、十分に精度管理がなされていないことに言及された。また、検査結果の品質保証のためには検体、測定、データに関わる要因が全て適切に行われている必要があり、標準作業書の整備や教育が重要であるとのことであった。

プログラム全体を通じて活発な質疑応答がなされ、盛会となった。



情報交換会にて（左から2人目が筆者）

大会終了後に人数を制限して開催した情報交換会には27名が参加した。この大会は情報交換会もセットが基本であるが、昨年は開催されず、4年ぶりに対面での情報交換ができた。

ご尽力をいただいた皆様に、この場を借りてあらためて御礼を申し上げさせていただきます。

次回、第33回神奈川県臨床検査医学会大会は、来年6月8日に、同じ会場で開催予定であり、大会長は、藤沢市民病院臨床検査科の清水博之氏である。是非ご参加を検討願いたい。



神奈川県臨床検査技師会と神奈川県臨床検査医学会との共催で開催された行事について紹介いたしました。

今回、紹介したように、各都道府県技師会では、毎年独自に学会・研究会等を主催・共催しています。是非、ご自身の所属されている都道府県の行事にご参加ください。また、他都道府県技師会員も参加可能な学会・研究会もございます。興味があるテーマや演題のある行事を探してみてください。

日本検査医学会のHPはこちら↓
<https://www.jslm.org/>



各都道府県技師会のホームページへは、
当会ホームページの
バナーから



令和元年の定款改定により、同年12月1日以降、日臨技のみの入会はできなくなっております。それ以前にご入会の日臨技のみ会員の皆様は是非、都道府県技師会へご入会ください。当会会員専用ページから入会手続きを開始できます。

在宅医療に興味をお持ちの方は、日本在宅医療連合学会ホームページもご覧ください。



第6回日本在宅医療連合学会大会

会期：2024年7月20日（土）21日（日）

会場：幕張メッセ（千葉市）

URL：<https://confit.atlas.jp/guide/event/jahcm2024/top>

2026年 第36回世界医学検査学会 World Congress of International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS) の日本開催が決定！！

＝ IFBLS Chief Delegate and Annual GAD Meeting (代表者会議と年次総会) 報告 ＝

IFBLS(International Federation of Biomedical Laboratory Science)の学会は2年ごとに開催され、学会のない年度には世界代表者会議 (CD meeting: chief delegates meeting) が行われる。CD meetingの前にはIFBLS理事会と3役会が行われ、世界各国からの情報のとりまとめをはじめ、議案の確認や会議の進行などを検討する。

今回は日本臨床衛生検査技師会が第36回世界医学検査学会 (2026年開催) を招致するための最終審査も議題であった。

このIFBLS理事会が10月4日、6日、代表者会議が6日、7日Ireland のDublinで開催されました。代表者会議は 13カ国(アイルランド・インド・オーストラリア・スウェーデン・ドイツ・ノルウェー・カメルーン・イギリス・カナダ・フィリピン・USA・韓国・日本)から、計26名が出席し、活発な討論がされた。

日本からは、日本臨床衛生検査技師会(JAMT)代表理事 長沢光章 副会長、小松京子JAMT・IFBLS 2026招致委員会委員長、片山博徳JAMT国際活動WG委員長が出席した。

【会議の概要】

WHO連携事業については、検査科学に関する専門家の意見を提供することにより世界の健康政策に協力し、また、IFBLSの加盟国に対し、国家保健計画の一環として、パンデミック後の診断に対する規制、評価、管理、およびすべての疾病と医療上の課題に取り組むための統合ネットワークの開発を含む国家診断戦略の確立について検討課題とした。Strategic planの実践として、1) 臨床検査技師の啓蒙活動として全世界に発信し続ける。2) IFBLS世界会議によりパンデミック後も本学会により低・中所得国に特に重点を置いた臨床検査技師の専門能力開発を世界的に促進する。また、教育と専門能力開発についてIFBLSは、生物医学検査科学者の継続的な専門能力開発のための機会を提供するなどについてグループディスカッションも交えながら検討された。

今後のIFBLS関係の予定は、IFBLS創立70周年記念集會として、2024年のIFBLS Chief Delegate Meeting (代表者会議) が10月上旬にカナダで開催される。な



2023年IFBLS Chief Delegate Meeting参加メンバー

お、2024年には世界会議は開催されません。2025年のIFBLS Chief Delegate Meeting (代表者会議) は9月にスウェーデンのストックホルムで開催される。

【日本での2026世界医学検査学会開催について】

第36回World Congressは2026年 千葉県幕張 (幕張メッセ国際会議場) で開催されることが決定した。会期は2026年9月23日 (水) ~27日 (日) です。

コロナパンデミック中に1年延期で2021年に開催となった第34回World Congress (デンマーク)、2022年に開催された第35回World Congress (韓国、スウェーデン) での大会開催での問題点を解決すべくガイドラインの見直しがあり、JAMTは新しいガイドラインに基づき開催招致の手続きを進めた。

今回、小松招致委員長によりCD meetingでプレゼンテーションを行い、特に災害時や感染症の蔓延、不測の事態などが発生した場合、オンデマンドでの会議開催や、ハイブリッドシステムで開催などJAMTに十分な経験があることを強調した。JAMTの企画と財力を信頼しており、文化的な魅力のある国でもあり参加することを楽しみにしているとの話されていた。

第36世界医学検査学会は、日本で10年ぶりの世界の臨床検査技師の集まる大きなイベントとなります。参加して下さることが、お手伝いであり国際貢献になります。皆様のご参加を宜しくお願いいたします。

The 7th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (第7回アジア医学検査学会)

= Summary =

第7回アジア医学検査学会(AAMLS)が、2023年10月9日(火)~12日(木)を会期とし、マレーシアのクアラルンプールで開催された。

参加国は主催国であるマレーシアをはじめ日本、韓国、フィリピン、台湾、タイ、インドネシア、マカオ、シンガポール、ブルネイ、ミャンマー、オーストラリア、ラオス、インドの13カ国および、AAMLSへの加盟申請中のカンボジアと香港が参加した。また、第32回マレーシア臨床検査技師(MIMLS)総合学術大会も同時に開催された。AAMLSの理事会・総会などの行事に役員が出席し、総会では宮島会長がAAMLS理事に再選された。

その他、ラボツアー、ガラディナーの社交行事に参加し全員無事に帰国した。



開会式での集合写真



AAMLS理事会



日臨技参加者:写真左から

滝野寿 専務理事、永倉優 会員(一般演題発表者)、石嶺南生 会員(一般演題発表者)、長沢光章 副会長、坂本秀生 国際活動WG委員、片山博徳 国際活動WG委員長

= Conference report =

学会1日目:10月9日(月)

Pre-congress ワークショップのみであり日臨技参加者は全員、ホテルへのチェックインを済ませてプログラム全般と会議の日程などにつきmeetingを行った。

学会2日目:10月10日(火)

午前中に公式行事であるオープニングセレモニーが举行され学会長を務めたHarvinder Kaur Lakhbeer Singh氏(MIMLS会長)より式辞が述べられた。引き続き、AAMLS会長のEddie Ang氏から挨拶があり、加盟国の代表の紹介があった。AAMLS理事会が14:00から開催され長沢副会長、滝野寿 専務理事、片山が出席した。理事会は会長であるEddie Ang氏(シンガポール)の挨拶に始まり、2023年4月に台湾で開催された理事会の議事録確認、会計報告等について審議され

た。また第8回AAMLS学会を開催する台湾の会長より学会開催に対する抱負が述べられ、全ての議事を終了した。その後、ラボツアーとして国立衛生研究所 National Institutes of Health (NIH)と、衛生検査所のPremier Integrated Labの2ヶ所を視察した。

夜は歓迎レセプションが開催され各国から参加した検査技師仲間と歓談した。

学会3日目:10月11日(水)

9:30よりAAMLSの総会が開催された。

総会では理事会で承認された議案の報告並びに次期の理事、会長、副会長、他の役員選挙が行われた。宮島JAMT会長が理事に再任され、財務担当理事に推薦された。

次期会長にはHarvinder Kaur Lakhbeer Singh氏(MIMLS会長)、副会長には次回開催国のTe Lung Tsai氏(TAMT会長)とInho Jang氏(KAMT会長)が選出された。

また、カンボジア技師会(CAMT Ket Vansith会長)の加盟申請が承認された。最後に、次期の開催国である台湾より学会のプレゼンテーションがあり、開催は2025年5月10日(土)~12日(月)で開催地は台北市である。

学会最終日の10月12日(木)に閉会式がありAAMLSの新執行部の紹介、次期開催国からの挨拶があり、ポスター賞をはじめとする表彰が行われた。次回の再会を約束し名残を惜しみながらの閉会となった。

(国際活動WG委員長 片山 博徳)

次ページでは当会から参加された3名の報告をご紹介します。

AAMLS参加の醍醐味

坂本 秀生 国際活動WG委員
神戸常盤大学保健科学部医療検査学科

筆者がアジア医学検査学会 AAMLSにて最初の発表は2009年に横浜で開催された第3回大会であり、その後は2013年シンガポール、2017年韓国、そして2023年マレーシアの今回で4回目の参加であった。

参加する度に感じるのはアジア地域の臨床検査レベルの高さと、臨床検査技師の方々の熱さだ。特に今回は約3年に及ぶコロナ禍に耐え、完全対面で開催されたこともあり、会場のWorld Trade Centre Kuala Lumpurは至る所で久しぶりの再会を祝うかのような活気に満ち溢れていた。

3日間の会期中に16のシンポジウムが開催され、そのうちの4つが医動物、感染症、アジア地域に焦点を絞った内容であったが、それ以外は血液検査、生化学検査、病理検査、微生物検査、輸血検査、検査室管理、ISO最新情報、予防医学、がんゲノム、臨床検査技師教育、検査機器及びPOCTなど、日本におけるテーマとよく似ており、日本人にも馴染みやすい内容であった。



国立衛生研究所へのLaboratory Tour

AAMLSイベントで特色の一つにLaboratory Tourとして施設見学があり、希望者は開催国の臨床検査室へ訪問可能である。今回は国立衛生研究所National Institutes of Health (NIH)と、リファレンスラボ機能もある衛生検査所のPremier Integrated Labの2施設が用意され、日本からの参加者はNIHのツアーに加わった。NIHで設置されている機器類は最先端の物が多く、各検査室における機器類の配置はスペースに余裕を持ち、そこで働くスタッフの動線と健康へ配慮していることが一目瞭然であった。筆者はマレーシア訪問の3週間前にカリフォルニア州立大学やハーバード大学の教育病院へ訪問をしたばかりであったが、それらの施設と比しても遜色ないどころか、スペースに余裕ある分、こちらの施設の方が働きやすいのではないかと感じた。施設見学中はAAMLS参加者達との交流もあり、アジア地域の臨床検査仲間の本音に接する機会になる。

AAMLSは名称のごとくアジア地域で開催されるので、欧米への渡航費用と比して安価、移動時間も短く時差も殆どなく、現地技師会のホスピタリティーに溢れている。次回は2025年5月に台北にて開催予定であり、多くの方々に参加していただいて日本の良さを紹介していただくと共に、視野をさらに広げる機会にしていいただければ幸いである。

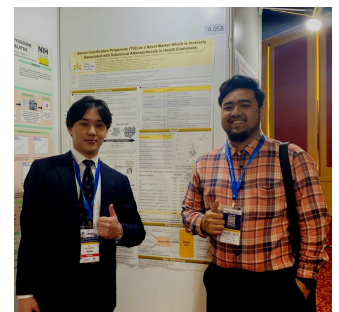
AAMLS参加体験記

永倉 優
大阪公立大学医学部附属病院 中央臨床検査部

この度、7th Congress of AAMLSのPoster Presentationで発表いたしました。本学会の参加経緯については、兼ねてより国際学会に興味を抱いていた私に上司である武村和哉技師より本学会の要旨を伝えていただき、この機会を見逃す訳にはいかないと思い、参加を決意いたしました。

マレーシアに到着後、滝のような雨と雷鳴が鳴り響き、それを見られた坂本秀生先生が「バケツをひっくり返したような雨とはこのことか」と仰っていました。その景色と言葉が大変印象強く、鮮明に記憶に残っております。

本学会ではマレーシアをはじめカンボジアや韓国などの諸外国から多くの検査技師が参加され、Poster発表時は勿論のことLaboratory TourやGala Dinnerで国際交流を深めることができました。ブルネイで血液検査をされている方より多くの質問



Poster発表

をいただきました。また、台湾から来られたお二人とは今でも連絡を取り、今後の国際学会でお会いする約束をいたしました。他にもフィンランドやタイなど多くの参加者と交流を深めることができ刺激的な学会となりました。

最後になりますが、日臨技の関係者各位、会期中に御一緒していただけました長沢光章副会長、滝野寿専務理事、片山博徳先生、坂本秀生先生、石嶺南生先生、発表に際して格別のご高配を賜りました本学第二内科医局の先生方ならびに職場の皆様へ、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後は若者たちに橋渡しに

石嶺 南生 信州大学医学部附属病院 臨床検査部

10月9日～12日に開催されたthe 7th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (AAMLS 2023)にてポスター発表をし、日臨技の国際交流担当の先生方と一緒に各種イベントにも参加させていただきました。



学会後に韓国、フィンランドからの参加者と

今回の私の大きな目的は、国際交流のきっかけや、つながりの土台を作ることでした。幸運にも、日臨技の国際交流担当の先生方から色々お話を伺うことができ、またアジア諸国をはじめ、北欧の技師とも繋がりができましたので、来年度以降は是非若者たちに橋渡しをできればと思っています。

第61回大韓臨床病理士協会総合学術大会参加報告

学会概要



第61回大韓臨床病理士協会（以下、KAMT）総合学術総合大会が、令和5年10月13日（金）・14日（土）を会期とし、韓国群山のGunsan Saemangeum Convention Centerで開催されました。海外からは日本をはじめ、台湾、タイや米国などからの参加がありました。第61回KAMT総合学術総合大会の総参加者数は2,406名（韓国2,349名の他57名）であり日本からは36名が参加しました。学会前日の12日（木）には日韓代表者会議が開催されました。参加者は12日（木）18時半頃よりWelcome receptionに参加し、韓国・台湾からの方々と夕食をともにしながら国際交流がスタートしました。13日（金）には、日本人参加者のポスターセッ

ション、国際シンポジウムと学生フォーラムが行われました。ポスターセッションでは2名がOutstanding Poster Awardに選出されました。その他、ガラディナー等の行事に参加し海外からの参加者と国際交流を行い、15日（日）に全員無事日本へ帰国しました。

＝ 日本からの参加者内訳（順不同）＝

日臨技代表団(3名):

宮島会長、長沢副会長、滝野専務理事

日韓功労者会(3名):

下杉元会長、小沼元副会長、富永元副会長

日韓交流功労賞受賞者(1名): 横地前副会長

派遣役員(10名):

益田常務理事、宮原執行理事、高村理事、
倉重理事、勝山理事、今川理事、桑原理事、
林理事、杉岡理事、南部理事、菊地理事

事務局兼引率者(2名):

橋爪良雄、李聖賢

国際シンポジウムシンポジスト(2名):

三澤慶樹、野坂大喜

学生フォーラム発表者(2名):

木下真唯子、小谷斗彩

73JAMT広報兼ポスター発表者(3名):

油野友二、玉野裕子、大野千賀

一般参加者兼ポスター発表者(9名):

菊地良介、國廣まり、原祐樹、石田秀和、
滝本将士、小松京子、加川祐佳、森藤哲史、
能宗千帆

日韓代表者会議 report

当会からの参加者は10月11日（水）or 12日（木）に羽田空港、中部空港、関西空港、福岡空港よりそれぞれ出発し、ソウルの仁川空港で合流、学会場がある群山へ移動しました（走行距離：約210km）。宿泊先に到着後、日臨技代表団は代表者会議に出席しました。

10月12日（木）：代表団3名（宮島会長、長沢副会長、滝野専務理事）と随行者（益田常務理事、橋爪事務局長、菊地理事）は日韓代表者会議に出席しました。代表者会議では、張仁鎬協会長より「第61回KAMT総合学術大会」への歓迎の挨拶と「第72回日本医学検査学会」のお礼を、宮島会長からは招聘へのお礼の挨拶が述べられました。また、第62回KAMT総合学術大会が仁川（SONGDO CONVENCIA）において2024年8月30日～31日に開催予定であることがKAMTより報告されました。また、第73回日本医学検査学会が金沢市において、2025年5月11日～12日に開催される旨を、当会よ



日韓代表者会議参加者一同

り報告しました。

議題は、①2024年、2025年開催予定の双方主幹学会の開催予定日について、②日韓交流功労者受賞候補者の確認、③IFBLS2026について、以上が協議されました。最後に、日韓それぞれの国政に関することについて意見交換がありました。

（国際活動WG担当理事 菊地 良介）

◆◆ 一般演題発表 ◆◆

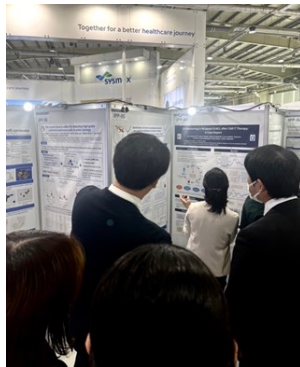
國廣 まり（福山市民病院）

この度、第61回大韓臨床病理士協会総合学術大会にポスター発表者として参加させていただきました。また Outstanding Poster Award に選出いただき、身に余る光栄に存じます。

発表形式は、審査の方で対面で自身のポスターについて発表するもので、私は発表の際、審査の方と“共有・共感すること”に注力しました。

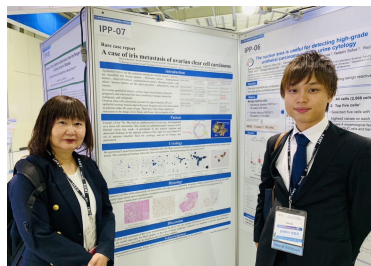
今回の学会において、学生フォーラムやポスター発表、シンポジウムを拝聴する中で数多くのことを学ばせていただきました。今後の臨床検査技師活動にいかしていきたいと存じます。

最後に、宮島会長をはじめ日臨技関係者および貴重な時間を共有できた方々に心より御礼申し上げます。



滝本 将士（総合病院土浦協同病院）

この度、第61回大韓臨床病理士協会総合学術大会に、ポスター発表者として参加させていただきました。この学会に参加させていただき、臨床検査技師と



しての可能性の広さを感じるとともに、自身の実力不足を少し悔しく感じております。現地では、雑誌や壇上でしか拝見することのない日本臨床衛生検査技師会（JAMT）の会長・副会長や理事、支部長や功労者の先生方が気さくに話しかけてくださり、大変感激しました。諸先輩と数日間ご一緒させていただく機会も、海外の臨床検査技師の方々と交流できる機会も、私にとっては将来像を考え直すきっかけとなりました。

JAMTの宮島会長の説明の中で、日韓の技師会の交流は長く継続していることを知り、その歴史に感動しました。また、若手の国際交流を支援する今回のような企画がJAMTにあることは、会報JAMTで読んだことはあるものの、自分も含めて職場のスタッフは、身近なものとして受け止めてはおりませんでした。このような素晴らしい企画がもっと周知され、多くの若手技師が体験できると良いと思いました。改めて、情報をくださり英語の添削や発表練習など多方面からご指導下

された、元IFBLS会長の小松京子様、支援くださった職場の皆様感謝申し上げます。ここで得たものをただの思い出とせず、長期または短期的な目標を明確にし、今まで以上に積極的に、語学も含めた様々な学びに取り組んでいきます。

最後になりますが、この大変貴重な体験をさせていただいたJAMT、KAMT、および関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

◆◆ 国際シンポジウム ◆◆

野坂 大喜

（国立大学法人 弘前大学大学院保健学研究科）

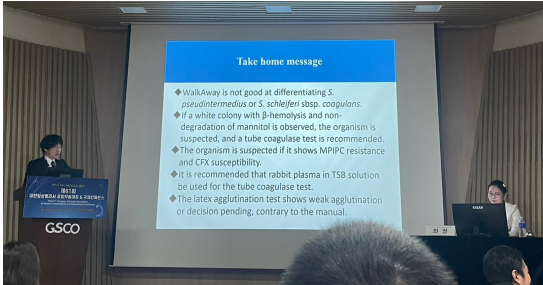
第61回大韓臨床病理士総合学術大会及び国際カンファレンス（The 61st Congress of the Korea Association of Medical Technologists and International Conference）が中西部の群山で開催され、この度シンポジストとして発表する機会をいただきました。本学会は研究成果の公開だけでなく、日韓台で活躍されている臨床検査技師の交流の場でもあります。今大会よりタイ王国の第一線で活躍される臨床検査技師の皆様も加わったことで、アジア各国の現状をより深く理解し、交流を広げることができました。私の担当させていただいたセッションテーマはArtificial Intelligence in Diagnostic testであり、近年劇的な変化を遂げている医療技術分野の1つです。講演では“Progress of AI technologies for laboratory hematology and its potential in biomedical laboratory - New role of Biomedical Scientists in the AI field -”のタイトルで、AIが臨床検査分野においてどのような過程を経て進化を遂げてきたのか、また我々の研究室で行っている血液検査用AI技術開発について過去5年間の研究成果を紹介いたしました。時間が短かったこともあり、医療AI技術の概要しかご紹介はできませんでしたが、各国からの講演でも臨床検査分野におけるAI技術の将来性や課題が提示され、国際学会を通じて新たな医療技術についての情報を共有し合うことの重要性を改めて認識致しました。次年度以降もこの国際カンファレンスは、新たにタイのメンバーを加えて継続されていくようですので、日本からのご参加・ご発表を検討されている臨床検査技師の皆様にとっての後押し



となれば幸いです。この場をお借りして本発表にご協力、ご支援くださった皆様に感謝を申し上げます。また主催頂いたKAMTの皆様、渡航手配等にご尽力頂きましたJAMT事務局の皆様にも厚く御礼申し上げます。

三澤 慶樹

(東京大学医学部附属病院 感染制御部 微生物検査室)



この度は、国際シンポジウムでの発表と交流の機会をいただきました日本臨床衛生検査技師会 (JAMT) ならびに韓国臨床衛生検査技師会 (KAMT) の皆様に心より感謝申し上げます。シンポジウムは、emerging Infectious Diseases (新興感染症) という難しいテーマではありましたが、「ヒトから分離された *Staphylococcus pseudintermedius* と *Staphylococcus schleiferi* sbsp. *coagulans* の生化学的および表現型の特徴」という演題名で発表させていただきました。ブドウ球菌の中でもかなりマイナーな菌種のため、どの程度興味を持って聞いていただけるか不安でしたが、会場から質問をいただくことができました。発表後に質問していただいたタイの方にお礼と共に話すことで、日本と異なる現状と検査方法や試薬の違いを知り、国際交流の醍醐味を味わうことができました。これもひとえに日臨技の支援事業の賜物と思いますので、今後もこのような支援事業を継続していただけたらと願います。

木下 真唯子 (帝京大学)

今回、初めてKAMT学会に参加しましたが、他の同世代の方々の発表を聴いたり互いに交流を深めたりして、とても良い刺激を受けました。発表では、自分とは全く違う視点の内容の発表や一歩踏み込んだ少し難しい内容の発表もあり、興味深い発表が多くて勉強になりました。同世代にも関わらず、皆英語が上手で私も臨床検査技師における知識・技能だけでなくもっと遠い将来を見据えて勉学に励まなければいけないと強く思いました。大勢の前で発表するのは緊張しましたが、自分の考えが皆に伝わることは嬉しいことであり、何より一緒に準備に携わってくれた先生方や応援してくれた家族や友人がいたので心強く、安心して発表に臨むことができました。また、KAMT学会を通して学生以外での素敵なお縁にも恵まれました。このご縁を大切に、もう一度このような学会に参加できたらと思います。そして、将来の進路の視野も広がったので本当に貴重な経験でした。ありがとうございました。



小谷 斗彩

(福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科)

第61回大韓病理士協会総合学術大会学生フォーラムという貴重な発表の機会を与えて頂き、ありがとうございました。今回が初めての国際学会発表であることから、とても緊張しましたが、当日は楽しみながら参加することができ、日本、韓国および台湾の方々の前での英語による発表は、私にとって貴重な経験となりました。また、他国学生の発表を聴講し、英語力やプレゼンテーションの完成度の高さをひしひしと感じ、私自身の英語力と表現力を伸ばさなければと強く感じました。



臨床検査技師を目指す立場として参加させていただき、国内外の方々と交流し様々な視点に触れる中で、自分の将来について視野が広がりました。これからもこのような学会発表に挑戦し、交流を深め、自分自身のスキルアップにつなげていきたいです。今回の参加にあたり、KAMT、JAMTおよび関係者の皆様、大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

学生フォーラム



令和5年度 医療安全管理者養成講習会(基本コース)開催報告

令和5年度 医療安全管理者養成講習会(基本コース)はオンデマンド配信と現地開催をセットで受講していただく形式で開催しました。受講者は10月1日～11月30日までの期間にオンデマンド配信を受講し、さらに10月13日(金)～14日(土)の現地開催への参加が求められます。現地開催はつくば国際会議場で行われ、44名が受講されました。受講者からの感想をご紹介します。

～ 受講者からの声 ～

千葉県立佐原病院 有田 茂実

去る10月13日、14日2日間にわたり、つくば国際会議場で開催された講習会を受講し、講演の聴講、グループワーク実習を行った。特にコロナ禍で、これまでなかなか実施できなかった現地でのグループワーク実習は、具体的な検討事例を挙げ、チームで解決までのプロセスについて議論し、進めていくため、非常に臨場感があり、多職種が関わる我々の医療現場におけるシミュレーションとして、貴重な経験となった。このほかに必修課程としてオンデマンド配信された31講演スライドを視聴し、各講演スライドの感想文の提出を終え、無事養成課程を修了できた。

この度の講習全体を通して、日常業務の医療安全管理に直ちに還元できる最新の情報と知識を短期間で習得することができた。また医療安全管理者の一人として、組織の中で、臨床検査技師の専門性を活かして力を発揮していく決意を改めてすることができた。

最後に本講習会の企画、運営に携わってくださった日臨技医療安全委員会の皆様に深謝いたします。

川崎医科大学附属病院 永井 智美

私は常々、ISO 15189取得を機に手探りで始めたリスクマネジメント、継続的改善活動(PDCA)などについて基礎から学びたい、品質管理スキルを向上させたいという思いを持っていました。日臨技HPで本プログラム・講習会の案内を目にしたとき、「医療安全管理」をロジカルに学ぶことが、その糸口になるのではないかという思いで、今回の参加を決意しました。

オンデマンド配信はもとより、現地開催の講習会の内容は期待以上のもので、エラーメカニズムの分析・対策、他業種の品質・安全管理などについての講義と実践的なグループワークがあり、医療安全・品質管理について理解を深めることができました。中でも安全推進研究所 河野龍太郎先生のご指導が情熱的だったことを覚えています。また、現地開催であったことから、全国から集まった参加者の皆さんと多くの意見交換や情報交換ができたことも貴重な体験となりました。今後は、今回の学びを一つ一つ実践し、自施設のQMS構築・改善に繋げたいと思っています。

最後になりましたが開催にあたり準備から当日の運営まで、医療安全委員会の先生方をはじめ多くの方々に大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

【現地開催1日目：令和5年10月13日(金)】

- 「エラーメカニズムの分析・対策(講義)」
講師：株式会社安全推進研究所 所長 河野 龍太郎
「エラーメカニズムの分析・対策(実習)」
講師：株式会社安全推進研究所 所長 河野 龍太郎

【現地開催2日目：令和5年10月14日(土)】

- 「研修会企画」
講師：昭和大学病院 医療安全管理部門 古田 康之
「産業界の品質・安全管理を学ぶ」
講師：前田建設工業株式会社 常任顧問 小原 好一
「品質管理と医療安全管理」
講師：株式会社日立製作所ひたちな総合病院 根本 誠一



実習の様子

【オンデマンド配信：令和5年10月1日(日)～11月30日(木)】

- 講義1「医療安全に必要な基礎知識」
講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社
メディカルリスクマネジメント室 玉利 英子
講義2「厚労省の医療安全の取り組み」
講師：医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室
医療安全対策専門官 駒形 和典
講義3「医療安全管理者の役割と業務」
講師：安曇野赤十字病院 中央検査室 村山 範行
講義4「医療機能評価機構事故収集事業」
講師：公益財団法人日本医療機能評価機構 井上 純子
講義5「KYITについて」
講師：パラマウントベット株式会社 主席研究員 杉山 良子
講義6「関係法規」
講師：仁邦法律事務所 弁護士 墨岡 亮
講義7「PMDAの取り組み」
講師：独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)
医療機器品質管理・安全対策部 医療機器安全対策課
調査専門員 京田 拓也
講義8「医薬品安全管理」
講師：公益社団法人日本薬剤師会 常務理事 高松 登
講義9「医療機器安全管理」
講師：公益社団法人日本臨床工芸学会 副理事長 山下 芳久
講義10「看護師の医療安全教育」
講師：公益社団法人日本看護協会 看護開発部
看護業務・医療安全課 内山 綾子
講義11「事故発生時の対応」
講師：医療紛争対応研究会
福山大学 生命工学部生命栄養科学科 教授 田中 信一郎
講義12「医療事故と診療情報管理」
講師：日本診療情報管理士会
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部
医療情報科学科 阿南 誠
講義13「検査部門の安全管理1(病理) 報告書管理体制加算含む」
講師：聖マリアンナ医科大学病院 病理診断科 島田 直樹
講義14「検査部門の安全管理2(生体部門)」
講師：小牧市民病院 臨床検査科 田中 夏奈
講義15「検査部門の医療安全3(検体採取もしくは輸血)」
講師：帝京大学ちば総合医療センター 山本 喜則
講義16「究極のチーム医療 -メンタリティー-」
講師：松阪市民病院 宇城 研悟
講義17「継続学習」
講師：慶応義塾大学医学部 病理学教室 鈴木 美那子
講義18「Safety IとSafety II レジリエンス」
講師：大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部
部長 中村 京太
講義19「今後の医療の変化と臨床検査技師の将来像」
講師：筑波大学 医学医療系長 川上 康
講義20「患者との協働で築く医療安全」
講師：認定NPO法人ささえあい医療人権センター-COML
理事長 山口 育子
講義21「TQMから学ぶ病院品質管理」
講師：日立グローバルライフソリューションズ株式会社
統括産業医 永井 庸次
講義22「患者安全のためのノンテクニカルスキルと
WHO患者安全マニュアル」
講師：千葉大学医学部附属病院
医療安全担当副病院長 相馬 孝博

(敬称略)

日臨技支部医学検査学会開催報告(1)

2023年度 中四国支部医学検査学会

「突破」～「社会を支える技術と人間力」～

学会長 高村 好実



「みんなで突破！突破のパス」



写真左：
学生フォーラム集合写真



写真右：
展示会場での開会式

2023年9月16日・17日、学会のテーマ「突破」～社会を支える技術と人間力～を掲げ、令和5年度日臨技中四国支部医学検査学会（第56回）が愛媛県県民文化会館で開催されました。

そのテーマに期待した通りに学会はそれぞれの参加者にとって「突破」になったのではと感じるものでした。この3年間コロナで開催が思うようにできていなかった私の思いは心の中で燃り続けていました。あの頃の勢いのある臨床検査学会をもう一度見てみたいとの思いを愛媛県臨床検査技師会実行委員会にぶつけて、また、各企画や運営に携わった委員や県内会員それぞれが、当地開催の学会への深い思いが企画に反映され、この愛媛県学会の姿になっていったものと思います。

本学会では、宮島日臨技会長の基調講演はもとより、愛媛県医師会会長村上先生、前厚生労働事務次官の吉田先生の特別講演、中央大学大学院教授の真野先生の文化講演と日本の医療行政やグローバルヘルスケアの最前線で携わっている方から分かりやすくお話していただきました。特に今後大きな人口減を抱える日本社会における地域社会における医療形態の方向性は今後の検査室運営の指針になったことと思います。

また、今回の学会はご協力いただく企業様が多かったことも盛会となった一つです。様々な機器や商品を展示していただくことは勿論ですが、顔を合わす機会の減った昨今において楽しく参加していただいたので

はないかと思えます。そして、日頃から施設で説明を聞くことや商品情報を得られない会員にとってもとても良い情報収集やコミュニケーションの場になったのではないかと思います。

さらに、学生フォーラムは愛媛県立医療技術大学が中心となって企画され、学生発表の意義をより高いフィールドへステップアップするとともに、学業もあがりながら演題発表に取り組まれる学生の思いにもあらゆる視点で応えていくという、職能組織と教育現場の相乗効果を生み出す結果を出しました。今後も学生の検査技師の夢広げる企画を次に続けていければ楽しい学会になると思います。また、高校生の検査技師体験も想定を超える参加申込があり、臨床検査技師の夢を抱く生徒や学校に私たちに驚きと喜びを与えていただきました。

日本の環境や組織の価値観など医療も含めすべてを取り巻く環境が変化していく中で、支部学会の在り方も変わります。今回は多くの参加者が「パワーを確認しパワーを蓄えた学会」としていただいたことを心より感謝しています。今後はその蓄えたパワーをあらゆる場所で活かしていただき、文字通り人生の壁を「突破」しながら歩んでいただきたいと思えます。参加いただいた多くの会員や企業様に感謝するとともに、来年度開催の鳥取県臨床検査技師会！頑張ってください！

（編集後記）新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられ、学会時の情報交換会や海外との交流なども行われるようになりました。非常に喜ばしいことですが、公共交通機関の混雑や週末のホテルの値上げもコロナ以前に戻ったように思います。海外に目を向けると、一般市民も犠牲になる悲惨な争いも続いており、思いやりを持って人と接することができるやさしい社会になることを願っています。（花牟禮）